

# 法遍寺 から大切な 皆様へ

2023年7月1日

日蓮正宗 年間方針

折伏躍動の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

僧俗一致・異体同心の  
団結

年間実践テーマ

① 勤行・唱題の徹底で活動  
の充実

自分自身が日々納得  
のできる勤行・唱題を

② 破邪顕正の折伏で誓願  
達成

御聖意を拝し、身軽法重  
死身弘法の決意に立つ

③ 寺院参詣と登山推進で  
人材育成

『金沢の抜け参り』のお  
姿を忘れず寺院参詣・  
御登山の推進を強化

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(電話番号：0561-54-9226)

相談無料 <https://hohenji.net/>



2023年6月11日 御報恩御講、創立記念虫松会の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日顕上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

## ① 講中のみなさまへ「色心二法で唱える妙法の信仰」

日蓮大聖人は、佐渡に配流される前日、先より土牢に幽閉され、寒さと空腹に耐える日朗に対し、「人は法華経を口で読むが心で読まず。心で読んでも身では読まず。しかし、あなたは色心二法の尊いお方である」(御書483 趣意)と讃歎された。色心二法とは、体と心が一致した修行の姿である。身で読むとは「不惜身命」、つまり全身全霊、大聖人の弘法への信仰に腹を決めることである。大聖人は末法の今、色心二法に修す対境として御本尊を顕された。この御本尊に色心二法で向かう日々の勤行・唱題が必要である。腹が決まれば折伏は誰にでもできる。御書の研鑽も色心二法でさせて頂き、拝読のその瞬間を有難いと念い、いらぬ優越心や慢心なく信仰の骨髓としていこう。私たちは刹那に成仏し、念々に墜獄する衆生であることを忘れずに。

## ② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その35)

平成3年11月7日、宗門は創価学会に「解散勧告書」を送付した。その趣意は同書の冒頭に次のとおり記されている。「創価学会は、本来、唯授一人血脈付法の法主の指南、及び教導のもと、日蓮正宗を外護し、広宣流布へと挺身すべき本宗信徒の団体であります。ところが、最近、創価学会は、自らの本分を忘れ、本宗信仰の命脈たる下種三宝義、並びに血脈相伝義をはじめとする本宗伝統の化法・化儀を、己義をもって改変し、他宗教さながらの様相を呈しております。日蓮正宗としては、これまでの慈悲の立場から、種々の指導・善導に努め、教誡等をもって反省懺悔を求めてきましたが、創価学会は、全くこれを無視し、かえってあらゆる手段をもって、法主・宗門に対して、誹謗・攻撃を加えつづけてきております。よって、もはやこれ以上、看過することはできず、ここに創価学会に対し、解散を勧告するものであります」というものである。(全文は省略)創価学会はこの勧告書に対し全く耳を持たず、全面的な宗門への反抗誹謗に終始し、反省の色は全く見られなかったため、同月28日、宗門は創価学会に対し、宗門よりの破門を通告したのであった。なお、創価学会はこの前日より、会長・秋谷栄之助氏の方針のもと、実体のない「日顕宗」の呼び名をもって宗門を侮蔑する経過をなしていったのである。

(次号より、「破門通告書」は全文を掲載していく)